



↑会報QRコード

くろつち便り

今月の内容

総会・交流会(6/7)／嘉徳海岸護岸工事／野草折々77(カワ)／退教協学習会(5/13・14)／シリーズ学校現場③②／独り言③⑧／第80回原爆祈念集会(8/9)／共助会講演会(8/19)／おつじともみと語る会(6/18)／**次回金曜集会は8/1日/17:30**

くろつち会総会

6月7日、予定通り総会が開催された。日高さんが述べられたとおり、総会参加人数は一頃よりだいぶ減ってきたのが寂しい限りだ。松尾会長が挨拶の中で「反対運動をしているのは年寄りだけ。子や孫の世代のためにも頑張っていきたい」と述べられた。

また会長や来賓の柳県議も触れられたように、近く行われる参院選挙、候補者への不満があるにしても現状打破のために自民党に美酒を味わわせてはいけな

い。哲学者内田樹の「選挙は全幅の信頼を託せる人を選ぶことではない。むしろ、国や自治体に害

をなす可能性のある人をできるだけ公職に就けないためのものである」(「沈む祖国を救うには」)という表現と軌を一にしている。

さて議事の方は、例年の日高南海男さんの名議長ぶりによりスムーズに進んだ。その中で特に、くろつち旅行と作品展の隔年おき実施、また新役員に花田勝美さんと福元千尋さんを迎えたことの報告があったことを注記する。両人とも宜しくお願いします。

「死ぬまで現役」と言って議長を降りられた日高さんだったが、まだまだ…



瀬戸内町嘉徳海岸、最高裁判決

4頁フィールドワークの記事で触れる嘉徳海岸護岸工事を差し止める訴え「嘉徳海岸は、季節や年によって大きく姿を変える動的な自然海岸であり、護岸工事は砂の移動を妨げ、むしろ災害リスクを高めるおそれがあること、そして豊かな生態系や景観への悪影響」を及ぼすと訴えてきたが最高裁判決で敗訴。世界自然遺産の条件の1つ「完全性(開発等の影響を受けず、自然の本来の姿が維持されていること)」にも抵触する。護岸工事をする

と生態系が壊れるだけではないのだ。これからも護岸工事反対運動を続けるという。

署名リンクは <https://change.org/savekatoku> です。

可能な方はぜひ協力を！

↑会長が手にしているのは能登豪雨の新聞(3頁参照)

ある日の職員連絡会で「私が以前担任をしていたところ、突然やって来た不審者に恐怖を感じた！」と言う校長の話から始まった防犯対策の提案。まず1階の出入口を閉め切つて施錠すること。また、「さすまた」を購入して不審者対応に備えておくこと…など。

(実はこの時点ですでにさすまた4本を発注済みだったからびっくり)事前の了解もなく進んでいく防犯対策。職員からも不満の声が聞こえてきた。たしかに緊迫した事例が報道される度にだれもが意

識するだろう。しかし、学校全体の取り組みはやはり共通理解が必要なのは確かだ。…ここを言うところでは共通理解がないのは残念だ。我がクラスには「邪魔だなあ。」とまでは口に出して言えないが、1本のさすまたが黒板の横に置かれている。もちろん担任が置いたものではない。分会としても段取りのおかしさを強く訴えたが内容が「不審者対策」だけに難しい。しばらくはこのままだろうか。…さて、小規模校とは言え必ずテーマを決め取り組む校内研修は、決まって研究授業の実施を計画するところがある。我が学校も今年度2回の研究授業を計画してあった。今年の授業者を決める時間しばらく沈黙の時間が続いた後、何がきっかけ

だったかははっきり覚えていないが、なんとこの最年長の人間が授業をすることになってしまった。(まさかそういうことだけにはならないだろうと思って油断していたからだろうか。)

教科は問わずと言うことで体育の「マット運動」をすることに決めた。…のはよかったが、器械運動はまず「模範演技」が大事で、お手本を見せて指導することに意味があると考えていた最年長者は、早速出来栄を試してみた。しょうがないとは言え「こんなはずでは…」と感じることもばかり。今は子どもたちと一緒に体を動かしながら、「若いころはもっと上手くできたんだ…」と呟く日々である。

だ。…と呟く日々である。



学校現場から
シリーズ
国見小
関下俊郎 32

臨時的任用教員：パート③



片言隻語(へんげんせきご)

人気上昇中の小泉。農政では頑張ってほしいが、ちょっと待て。中小小売店を軽視したトップダウンのやり方にトランプとの共通点がある気がする。そう言えば総裁選出馬の公約で憲法

問題で国民投票を急ぐと発言していた。危ないぞ！(18日尾辻朋美と語る会で氏は憲法問題には触れなかったが、小泉の問題点をあげた点は評価する。リベラルの元々の意味は寛容だ。彼女の寛い心で庶民の声を傾聴できると感じた)

8/9 第80回原爆祈念集会

1991年から続いてきたという原爆祈念集会。今年の8/9は土曜日でしかも80周年という節目の年です。イベント広場、10時～11時ぐらい迄。ぜひ多数の参加を！

ぶつくさ言う人 ぐぐぐの油り言 (38)

第42回退教協学習会奄美大会

昨年肝属での学習会に遠く奄美から自費参加してくれた旧知の勇寛和さんへの義理もあり参加したかった今年の奄美大会。だが情けないことにどうしても足腰が心配だ。実地踏査では足手纏いになるのは必死だろうなと迷っていたら、さっさと妻が申し込んでしまい「何年ぶりかしら。この機会を逃したらもう奄美に行くことないでしょ」と承伏させられた。妻の方が行くのを楽しみにしていたようだ。

こうなったらと腹を括って、5月13日奄美空港に降り立った。名瀬市内のホテルに着いて学習会が始まるまでの間、ホテルの一室で待機していたら、部屋がぐるぐる回りだした。ベッドに横になり目を閉じてじっとしていたら治まった。起き上がると再び同じ症状、だが吐き気はない。色々試すと、体を動かすとぐるぐる回りじっとしていると落ち着く。明日まで大丈夫か？

目眩の原因を色々探してみた。食事か？いやいや、懐かしのか

しゃ山村で立切さん茶園さんらと食事したが変わったことはなかった。茶園さんが借り上げたレンタカーでホテルに着いたのは13時、ひょっとして昼飲んだ病院からの処方薬のせい？取り敢えず、薬は止めることにした。(後になってどうも薬の所為だったらしいと判明した)

午後の学習会中は中身が濃く、別途簡単に記述したいが、特に勇さんは昔から嗜んでおられた三味線を駆使しながらの発表で、昔以上に名手ぶりに磨きが掛かっている感服した。

さて一番の楽しみは無論交流会、のはずだった、目眩さえなければ。参加を迷って開始間際までベッドに横になり、遅れ気味に会場に入ると、十数人の奄美退女教の方々がマイクの前に並び、乾杯前の座興が始まるようにしていた。あろうことか肝属の席は一番前。恐縮しながら席に着こうとすると、背をトントンと叩かれて振り向くと驚いた。「別府さんだねえ」と言う向こうも笑顔返した。夫君とは昼間挨拶を交わしたが、そうか刀自(杜氏)も一緒だったんだ。

奄美は退教協と退女教が一体となっているようだ。退教協の大会でありながら退女教も自然な形で参加協力している。指宿支部の紹介の中で、今村悟退教協副会長から、退教協・退女教一体化の提案をしている話があった。考えてみるに九州で全く別組織になっているのは鹿児島県など数県に留まると聞いている。一体、退職までは一緒に活動していて、退職した日から貴方は退協へ貴方は退女へと分けることの方がLGBTの観点からも不自然だ。いずれ鹿児島県も一体化を考えるべきだと思う。

さて交流会の方は、会場全体を巻き込んでの退女教の余興が20分ほど続いた。僕も目眩のことを心配しながら体を動かしていた。そして乾杯だ。

酔いが回るほどに、焼酎なのかその場の雰囲気なのか、目眩を追い遣ってしまったようだ。翌日も目眩は大丈夫だったし、歩行の方も何とか乗り切れた。

また現地調査も内容が濃く、こちらの方も別途簡単にでも記述したい。(樋園)

刀自(とじ)：戸主。一家の主婦の尊称。やや古風だが根からの島ンチュには今も使う人もいて方言丸出しの先輩北原謙二さんも確か妻をそう呼んでいた



↑花を拡大



野草折々-フフ-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

カヤラン (ラン科)

樹幹に着生し、5～6月頃数個の花をぶらさげる。葉が針葉樹のカヤ(樅)の葉に似ていることから名付けられた。



2025年5月 甫与志岳

交流会 & 歓迎会

総会の後は、交流会だ。



教え子達を戦場に送らない
為にガンバロウ、という意を
込めての上蘭さんの乾杯の
音頭とともに、明るい声が
響き渡り



場が和やかになった。昔日の
日々のできごとや近況を語
り合っ
たりする声が聞こえてきた。



くろつちには96才の立元さ
んをはじめ元気な方々が多い。
話の中で「〇〇は87才で
自分もそうだ」と言うように
同級生としての繋がり、また
奥様同士が同郷だという繋がり

りなど色んな繋がりがあり面
白いと思った。終盤になると、
遂にあちこち車座の出現だ。

日教組組合歌の段で、日高
さんが曲の出だしを「タタタ
タ～タタタタタ～」と歌い、
全員がその後に続いた。（後で

お聞きすると今でも地元
で合唱指導をしておられ
るという。道理で未だに
澄んだ声をしておられる）

最後は飯山さん。若
者を戦場に送ること勿れ、の
精神を新たに、締めめの挨拶
にされた。（樋園）



能登災害見舞金へのお礼の手紙

総会の中で松尾会長が触れて
いた通り、昨年9月の能登豪雨災
害に対する義援金は、県退教を通
じて石川県退教協に送ったのです
が、そのお礼の手紙が2月4日付
で鹿児島県退教に届きました。2
月上旬は能登は大雪警報が出され
ていたようです。千文字に及ぶ長
文なので一部抜粋紹介します。

「(前略)(肝属という)九州の南端
のみなさんが、能登の地震や水害
のお見舞いを送って下さることに
感謝するとともに、日教組や鹿児

島県教組、同退職教職員の連帯を、
改めて確認しています。(中略)

戦後の政治の中で、地方がい
かに大事にされてこなかったのか
が、大きな災害で明らかになって
います。(中略)能登で先生たち
ががんばって子どもたちと向き合っ
ています。退職教職員も避難先や
仮設住宅で地域のリーダーとして
頑張っています。(後略)」

復旧には長い時間がかかりそ
うとも書かれていましたが、義援
金が少しでも支援に役立ったよう
ですし、何より心の励みになった
だろうと思います。

第42回退教協学習会 第1コマ 5/13 奄美の歴史と島唄



勇寛和さんが一番強調して
おられたことは
日本の明治維新
薩摩の源泉は奄
美の黒糖を抜き
にしては語れな
い！ということ

だった。(以下、経緯を簡約)
〇1609年～大和世(薩摩藩支配)
琉球との争奪に勝ち、薩
摩の直轄地に(1611年)
農業の発展、精糖技術の
移入、大島砂糖の買入れ
で農民の暮らしを潤す

- 〇1745年木曾川治水工事
藩財政が逼迫するようにな
る→黒糖の売買禁止
黒糖地獄の始まり
- 〇1827年調所広郷の財政改革
砂糖の総買い上げの強化
違反者は厳罰
農民の一人あたりノルマ
を強制
豪農層を優遇
家人(債務奴隷)に転落す
る農民(薩摩藩は「七公四
民」だったが運送船賃が農
民負担で、実質「八公二民」)
- 〇1840年財政改革、ほぼ成功
- 〇1848年 密貿易・偽金作りが

- 発覚、責任を取り調所が自害
- 〇1867年大政奉還

ヤンチュ解放は法的には
明治5年だが、生涯ヤンチュ
のままの人多数いた
黒糖も、県が立ち上げた
大島商社が全てを買い上げ
る仕組みになり、売買は農
民の自由にはならなかった。
〇奄美民謡…過去一千年の歴
史・自然環境に醸成された八
六調、沈痛悲哀の情調
最後に口惜しそうに述べた。
〇島の人でも、黒糖地獄やヤ
ンチュ(債務奴隷)について知
らない人がある。残念だ。

第42回退教協学習会 第2コマ 5/13

奄美の軍事要塞化の現状

発表者 城村典文さん

- 2014年 自衛隊誘致問題
- 島々の民間空港はオスプレイの緊急着陸・訓練場所に
- 2016 オスプレイの沖縄普天間基地配備
- 2017年9月 奄美駐屯地と瀬戸内分屯地の造成工事開始
- 2019年3月 奄美駐屯地、瀬戸内分屯地を開所
- 日米軍事演習(オリエンタルド 東洋の盾)開始

○2020 嘉手納からPAC3(パトリオットミサイル)の搬入

駐屯地内でミサイル防護訓練

○2022年9月 米軍・高機動ミサイルハイオマースを搬入

駐屯地内で、日米合同でミサイル発射訓練

○2022年11月 徳之島を初訓練場所にしての離島奪還訓練

○2023年3月 徳之島で日米軍事演習(キーンソードKeen Sword)

○2023年11月 奄美群島で初の自衛隊統合訓練

等々、等々

奄美群島各地で、降下訓練や生地訓練

ミサイル発射訓練、敵陣探索行動、戦闘訓練等が行われている。

「沖縄戦での『対馬丸遭難事件』のような悲劇を起こさないためにも、『国民保護法』を運用・活用させない、政府の武力の放棄、『外交努力の徹底』による安全保障政策の転換を全国民が求めているかなければなりません。」



第42回退教協学習会 第3コマ 5/13

奄美の島とシマ

発表者 蘭 博明さん

水は山おかげ 人は世間おかげ
海山ぬ清らさや 太陽おかげ
教研などでたびたびお姿を拝していた蘭博明さんは今年91才になられるという。

ここに1冊の本(A4版160頁)がある。

会場で買い求めた物だが、表題はこの項と同じで副題に「蘭博明 長年の論文集」、編者が「有志一同」となっている。



いて、多くの方々に慕われていることが覗かれる。

内容は島差別の問題から環境問題、自然保護活動、復帰当時や勤務校でのこと、南海日々新聞の論説委員としての寄稿文等々、多岐にわたる。

先生は「島」と「シマ」というように表記を使い分けておられる。(以下、傍線は樋園)

・自然への畏敬の念はシマウタや民謡の中に面影を…

・シマ(奄美)という地域

・奄美が奄美でありつづける(注記; 奄美にシマとルビ)

・シマグチ ・シマユンタ

拾い上げたら切りがないが、思うに客体としての「しま」は「島」、そこに暮らす人々や生物、自然、歴史など全てを引っ包めて表すとき「シマ」と表記しているようだ。この思想は野生動物を原告にした「自然の権利」訴訟(1995年)にも繋がっている気がする。

書評(久岡学)に「島差別が郷土教育へ駆り立てた」とある。先生の原点はやはり子ども達への愛だろうし、理不尽さを許さぬ心だろうと感じた。

第42回退教協学習会 第4コマ 5/14

フィールドワーク

6人ずつ車4台に分乗して



最初に訪れたのは、奄美沖縄世界遺産センター。蘭博明さんらの長年の運動が実を結んで2021年7月に世界遺産に登録されたと理解している。館内は奄美の森を再現して、森で生活するアマミノクロウサギを初め、蛇やギンリョウソウ等々様々な動植物を展示し、ビデオでも再現していた。これらは奄美の地で現在も進行中の様々な運動(環境保全運動、平和運動等々)の源泉だ。

次は瀬戸内町の嘉徳海岸。行くにはこの道だけらしいが、山々をうねりながら進んでやっと辿り着いた。昨日、この砂丘を守る運動に嘉徳まで赴いて参加したという城村さんの話があったが、大変な道のりで、丸1日かかりだ。脱帽!

美しい砂丘だが、県はこの護岸工事を進めようと躍起だ。

「護岸」と聞こえはいいが全く護岸にはならないし、砂丘も台無しになるという。丁度来浜していたJ.M. 高木さん(注*サーファー、自然保護運動家)が、色々説明して下さった。

次は自衛隊の瀬戸内分屯地。



なるほど城村さんの言われる通り建物は「自衛隊グリーン」で堅牢だ。(白黒写真では分かりづらい)

古仁屋港から暫く西に車を走らせた

ところに須手港が

あって、採石したばかりの石が積み重なっていた。城村さんの説明によると、ここの石を沖縄辺野古の埋め立てに使っているようだ、という。須手はまた、自衛隊艦艇の輸送・補給拠点も考えているという。

隣の手安には陸軍旧弾薬庫跡もあったが、紙幅が尽きた。

